

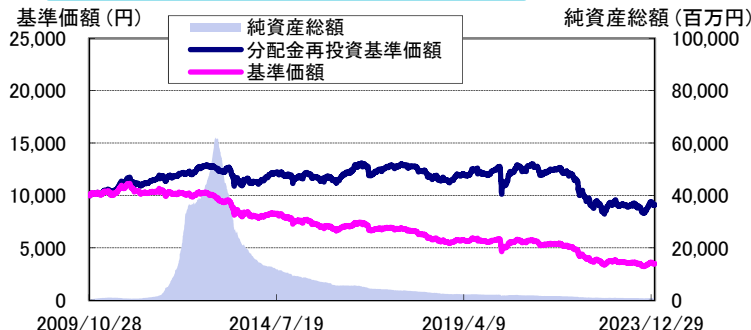


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## 円コース

### 運用実績の推移



(設定日: 2009年10月29日)

基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1か月	3か月	6か月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
-2.71%	9.30%	-0.99%	-2.96%	-20.63%	-28.30%	-23.06%	-17.94%	-8.64%

※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第133期 (2021.02.05)	20 円	第142期 (2021.11.05)	20 円	第151期 (2022.08.05)	15 円	第160期 (2023.05.08)	15 円	
第134期 (2021.03.05)	20 円	第143期 (2021.12.06)	20 円	第152期 (2022.09.05)	15 円	第161期 (2023.06.05)	15 円	
第135期 (2021.04.05)	20 円	第144期 (2022.01.05)	15 円	第153期 (2022.10.05)	15 円	第162期 (2023.07.05)	15 円	
第136期 (2021.05.06)	20 円	第145期 (2022.02.07)	15 円	第154期 (2022.11.07)	15 円	第163期 (2023.08.07)	15 円	
第137期 (2021.06.07)	20 円	第146期 (2022.03.07)	15 円	第155期 (2022.12.05)	15 円	第164期 (2023.09.05)	15 円	
第138期 (2021.07.05)	20 円	第147期 (2022.04.05)	15 円	第156期 (2023.01.05)	15 円	第165期 (2023.10.05)	15 円	
第139期 (2021.08.05)	20 円	第148期 (2022.05.06)	15 円	第157期 (2023.02.06)	15 円	第166期 (2023.11.06)	15 円	
第140期 (2021.09.06)	20 円	第149期 (2022.06.06)	15 円	第158期 (2023.03.06)	15 円	第167期 (2023.12.05)	15 円	
第141期 (2021.10.05)	20 円	第150期 (2022.07.05)	15 円	第159期 (2023.04.05)	15 円	第168期 (2024.01.05)	15 円	
							設定来累計分配金	7,225 円

※1 分配金は1万口当たり。

※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。  
分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-87
インカム	13
為替取引によるプレミアム/コスト	-17
為替	0
その他	-1
信託報酬	-5
分配金	-15
合計	-113

※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

※2 為替取引によるプレミアム/コストは対米ドルの直物為替レートおよび先渡為替レートを基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	760 百万円	792 百万円
基準価額	3,504 円	3,617 円
解約価額	3,500 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。

設定来高値	11,142 円	2010/11/5
設定来安値	3,227 円	2023/10/24

※ 設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(JPY)	97.8%
DIAMマネーマザーファンド	0.1%
現金等	2.1%

※ 比率は純資産総額に対する割合です。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

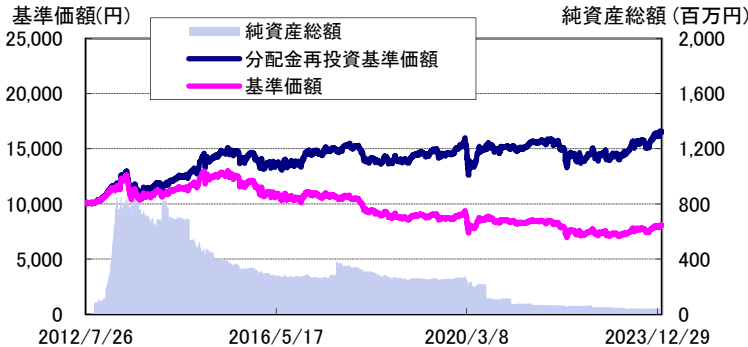


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## 米ドルコース

### 運用実績の推移



(設定日: 2012年7月27日)

基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	40 百万円	41 百万円
基準価額	8,076 円	7,938 円
解約価額	8,068 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。

設定来高値	13,009 円	2015/5/29
設定来安値	6,960 円	2022/3/8

※設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(USD)	92.8%
DIAMマネーマザーファンド	0.0%
現金等	7.1%

※比率は純資産総額に対する割合です。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
2.06%	9.74%	6.84%	15.34%	9.79%	9.77%	16.86%	43.78%	65.80%

※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第101期 (2021.02.05)	40 円	第110期 (2021.11.05)	40 円	第119期 (2022.08.05)	25 円	第128期 (2023.05.08)	25 円	
第102期 (2021.03.05)	40 円	第111期 (2021.12.06)	40 円	第120期 (2022.09.05)	25 円	第129期 (2023.06.05)	25 円	
第103期 (2021.04.05)	40 円	第112期 (2022.01.05)	25 円	第121期 (2022.10.05)	25 円	第130期 (2023.07.05)	25 円	
第104期 (2021.05.06)	40 円	第113期 (2022.02.07)	25 円	第122期 (2022.11.07)	25 円	第131期 (2023.08.07)	25 円	
第105期 (2021.06.07)	40 円	第114期 (2022.03.07)	25 円	第123期 (2022.12.05)	25 円	第132期 (2023.09.05)	25 円	
第106期 (2021.07.05)	40 円	第115期 (2022.04.05)	25 円	第124期 (2023.01.05)	25 円	第133期 (2023.10.05)	25 円	
第107期 (2021.08.05)	40 円	第116期 (2022.05.06)	25 円	第125期 (2023.02.06)	25 円	第134期 (2023.11.06)	25 円	
第108期 (2021.09.06)	40 円	第117期 (2022.06.06)	25 円	第126期 (2023.03.06)	25 円	第135期 (2023.12.05)	25 円	
第109期 (2021.10.05)	40 円	第118期 (2022.07.05)	25 円	第127期 (2023.04.05)	25 円	第136期 (2024.01.05)	25 円	
							設定来累計分配金	7,155 円

※1 分配金は1万口当たり。

※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。  
分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-182
インカム	27
為替	344
その他	-15
信託報酬	-12
分配金	-25
合計	138

※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

※2 為替は直物為替レートの1ヵ月間の騰落率を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1～3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

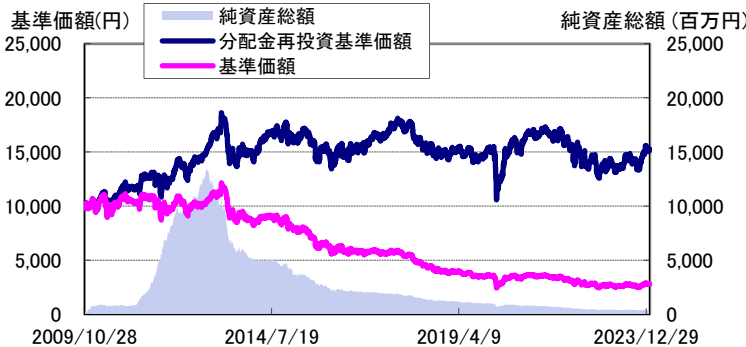


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## 豪ドルコース

### 運用実績の推移



(設定日: 2009年10月29日)  
基準価額は1万口当たり・信託報酬除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	396 百万円	411 百万円
基準価額	2,819 円	2,871 円
解約価額	2,816 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。

設定来高値	12,158 円	2013/4/12
設定来安値	2,436 円	2020/3/19

※設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(AUD)	97.9%
DIAMマネーマザーファンド	0.1%
現金等	2.0%

※比率は純資産総額に対する割合です。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1か月	3か月	6か月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
-1.46%	13.51%	5.14%	6.79%	0.55%	-8.37%	1.50%	6.36%	52.76%

- ※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。
- ※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
- ※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第133期 (2021.02.05)	20 円	第142期 (2021.11.05)	20 円	第151期 (2022.08.05)	10 円	第160期 (2023.05.08)	10 円	
第134期 (2021.03.05)	20 円	第143期 (2021.12.06)	20 円	第152期 (2022.09.05)	10 円	第161期 (2023.06.05)	10 円	
第135期 (2021.04.05)	20 円	第144期 (2022.01.05)	10 円	第153期 (2022.10.05)	10 円	第162期 (2023.07.05)	10 円	
第136期 (2021.05.06)	20 円	第145期 (2022.02.07)	10 円	第154期 (2022.11.07)	10 円	第163期 (2023.08.07)	10 円	
第137期 (2021.06.07)	20 円	第146期 (2022.03.07)	10 円	第155期 (2022.12.05)	10 円	第164期 (2023.09.05)	10 円	
第138期 (2021.07.05)	20 円	第147期 (2022.04.05)	10 円	第156期 (2023.01.05)	10 円	第165期 (2023.10.05)	10 円	
第139期 (2021.08.05)	20 円	第148期 (2022.05.06)	10 円	第157期 (2023.02.06)	10 円	第166期 (2023.11.06)	10 円	
第140期 (2021.09.06)	20 円	第149期 (2022.06.06)	10 円	第158期 (2023.03.06)	10 円	第167期 (2023.12.05)	10 円	
第141期 (2021.10.05)	20 円	第150期 (2022.07.05)	10 円	第159期 (2023.04.05)	10 円	第168期 (2024.01.05)	10 円	
							設定来累計分配金	11,770 円

- ※1 分配金は1万口当たり。
- ※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-69
インカム	10
為替取引によるプレミアム/コスト	-3
為替	22
その他	2
信託報酬	-4
分配金	-10
合計	-52

- ※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。
- ※2 為替取引によるプレミアム/コストは対米ドルの直物為替レートおよび先渡為替レートを基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。
- ※3 為替は直物為替レートの1か月間の騰落率を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1～3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

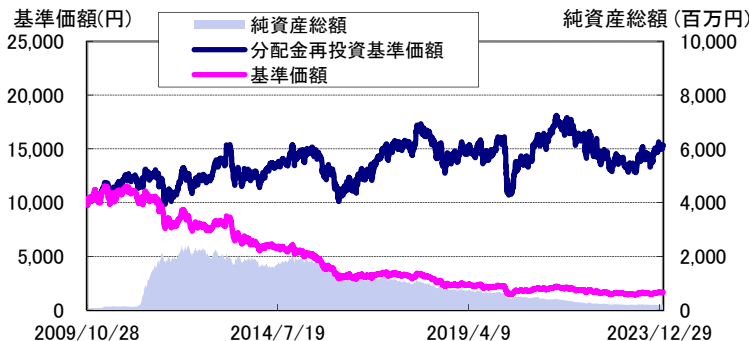


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## 南アフリカランドコース

### 運用実績の推移



(設定日: 2009年10月29日)

基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	193 百万円	196 百万円
基準価額	1,663 円	1,652 円
解約価額	1,661 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。

設定来高値	11,561 円	2010/4/5
設定来安値	1,422 円	2023/5/26

※設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(ZAR)	97.4%
DIAMマネーマザーファンド	0.0%
現金等	2.6%

※比率は純資産総額に対する割合です。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1カ月	3カ月	6カ月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
0.97%	11.09%	1.31%	10.03%	-2.82%	-1.91%	1.59%	31.30%	53.58%

※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第133期 (2021.02.05)	15 円	第142期 (2021.11.05)	15 円	第151期 (2022.08.05)	5 円	第160期 (2023.05.08)	5 円	
第134期 (2021.03.05)	15 円	第143期 (2021.12.06)	15 円	第152期 (2022.09.05)	5 円	第161期 (2023.06.05)	5 円	
第135期 (2021.04.05)	15 円	第144期 (2022.01.05)	5 円	第153期 (2022.10.05)	5 円	第162期 (2023.07.05)	5 円	
第136期 (2021.05.06)	15 円	第145期 (2022.02.07)	5 円	第154期 (2022.11.07)	5 円	第163期 (2023.08.07)	5 円	
第137期 (2021.06.07)	15 円	第146期 (2022.03.07)	5 円	第155期 (2022.12.05)	5 円	第164期 (2023.09.05)	5 円	
第138期 (2021.07.05)	15 円	第147期 (2022.04.05)	5 円	第156期 (2023.01.05)	5 円	第165期 (2023.10.05)	5 円	
第139期 (2021.08.05)	15 円	第148期 (2022.05.06)	5 円	第157期 (2023.02.06)	5 円	第166期 (2023.11.06)	5 円	
第140期 (2021.09.06)	15 円	第149期 (2022.06.06)	5 円	第158期 (2023.03.06)	5 円	第167期 (2023.12.05)	5 円	
第141期 (2021.10.05)	15 円	第150期 (2022.07.05)	5 円	第159期 (2023.04.05)	5 円	第168期 (2024.01.05)	5 円	
							設定来累計分配金	11,505 円

※1 分配金は1万口当たり。

※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。  
分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-40
インカム	6
為替取引によるプレミアム/コスト	4
為替	47
その他	1
信託報酬	-3
分配金	-5
合計	11

※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

※2 為替取引によるプレミアム/コストは対米ドルの直物為替レートおよび先渡為替レートを基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※3 為替は直物為替レートの1ヵ月間の騰落率を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne



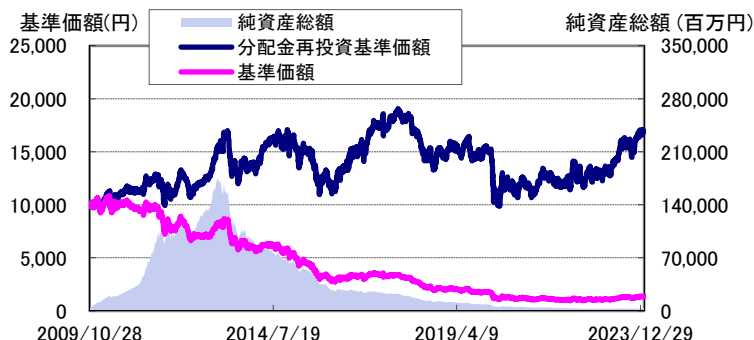


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## ブラジルリアルコース

### 運用実績の推移



(設定日: 2009年10月29日)  
基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額) ※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	3,093 百万円	3,112 百万円
基準価額	1,362 円	1,361 円
解約価額	1,361 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。  
設定来高値 10,860 円 2010/4/27  
設定来安値 975 円 2022/3/9  
※設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(BRL)	97.6%
DIAMマネーマザーファンド	0.3%
現金等	2.0%

※比率は純資産総額に対する割合です。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1か月	3か月	6か月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
0.30%	13.15%	4.48%	26.26%	38.27%	43.76%	8.92%	27.12%	69.04%

※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。  
※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。  
※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第133期 (2021.02.05)	15 円	第142期 (2021.11.05)	15 円	第151期 (2022.08.05)	3 円	第160期 (2023.05.08)	3 円	
第134期 (2021.03.05)	15 円	第143期 (2021.12.06)	15 円	第152期 (2022.09.05)	3 円	第161期 (2023.06.05)	3 円	
第135期 (2021.04.05)	15 円	第144期 (2022.01.05)	3 円	第153期 (2022.10.05)	3 円	第162期 (2023.07.05)	3 円	
第136期 (2021.05.06)	15 円	第145期 (2022.02.07)	3 円	第154期 (2022.11.07)	3 円	第163期 (2023.08.07)	3 円	
第137期 (2021.06.07)	15 円	第146期 (2022.03.07)	3 円	第155期 (2022.12.05)	3 円	第164期 (2023.09.05)	3 円	
第138期 (2021.07.05)	15 円	第147期 (2022.04.05)	3 円	第156期 (2023.01.05)	3 円	第165期 (2023.10.05)	3 円	
第139期 (2021.08.05)	15 円	第148期 (2022.05.06)	3 円	第157期 (2023.02.06)	3 円	第166期 (2023.11.06)	3 円	
第140期 (2021.09.06)	15 円	第149期 (2022.06.06)	3 円	第158期 (2023.03.06)	3 円	第167期 (2023.12.05)	3 円	
第141期 (2021.10.05)	15 円	第150期 (2022.07.05)	3 円	第159期 (2023.04.05)	3 円	第168期 (2024.01.05)	3 円	
							設定来累計分配金	12,115 円

※1 分配金は1万口当たり。  
※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。  
※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。  
分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-33
インカム	5
為替取引によるプレミアム/コスト	5
為替	32
その他	-4
信託報酬	-2
分配金	-3
合計	1

※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。  
※2 為替取引によるプレミアム/コストはNDFインプライド金利等を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。  
※3 為替は直物為替レートの1か月間の騰落率を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

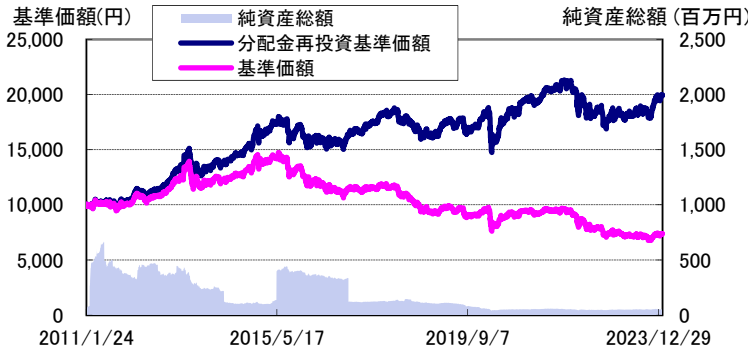


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

追加型投信／海外／債券  
2024年1月31日基準

## 中国元コース

### 運用実績の推移



(設定日: 2011年1月25日)

基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。  
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。  
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)  
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。  
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

### 基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
純資産総額	52 百万円	54 百万円
基準価額	7,387 円	7,367 円
解約価額	7,380 円	

※基準価額および解約価額は1万口当たり。

設定来高値	14,735 円	2015/5/29
設定来安値	6,773 円	2023/10/23

※ 設定来高値・設定来安値は、同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

### ポートフォリオ構成

ケイマン エマージング ソブリン ファンド クラス(CNY)	94.5%
DIAMマネーマザーファンド	0.3%
現金等	5.2%

※比率は純資産総額に対する割合です。

### 騰落率(税引前分配金再投資)

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	2年	3年	5年	10年	設定来
1.10%	11.07%	6.62%	7.74%	-2.27%	1.98%	16.71%	46.80%	99.78%

※1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

### 分配金実績(税引前) ※直近3年分

第121期 (2021.02.05)	60 円	第130期 (2021.11.05)	60 円	第139期 (2022.08.05)	60 円	第148期 (2023.05.08)	60 円	
第122期 (2021.03.05)	60 円	第131期 (2021.12.06)	60 円	第140期 (2022.09.05)	60 円	第149期 (2023.06.05)	60 円	
第123期 (2021.04.05)	60 円	第132期 (2022.01.05)	60 円	第141期 (2022.10.05)	60 円	第150期 (2023.07.05)	60 円	
第124期 (2021.05.06)	60 円	第133期 (2022.02.07)	60 円	第142期 (2022.11.07)	60 円	第151期 (2023.08.07)	60 円	
第125期 (2021.06.07)	60 円	第134期 (2022.03.07)	60 円	第143期 (2022.12.05)	60 円	第152期 (2023.09.05)	60 円	
第126期 (2021.07.05)	60 円	第135期 (2022.04.05)	60 円	第144期 (2023.01.05)	60 円	第153期 (2023.10.05)	60 円	
第127期 (2021.08.05)	60 円	第136期 (2022.05.06)	60 円	第145期 (2023.02.06)	60 円	第154期 (2023.11.06)	60 円	
第128期 (2021.09.06)	60 円	第137期 (2022.06.06)	60 円	第146期 (2023.03.06)	60 円	第155期 (2023.12.05)	60 円	
第129期 (2021.10.05)	60 円	第138期 (2022.07.05)	60 円	第147期 (2023.04.05)	60 円	第156期 (2024.01.05)	60 円	
							設定来累計分配金	10,320 円

※1 分配金は1万口当たり。

※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。  
分配金が支払われない場合もあります。

### 基準価額変動の要因分析(概算値)(前月末比)

(単位:円)

キャピタル	-171
インカム	26
為替取引によるプレミアム/コスト	-10
為替	255
その他	-8
信託報酬	-11
分配金	-60
合計	20

※1 左記の要因分析は、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供されたデータを基に委託会社が作成したものです。組入債券の値動き、為替変動等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

※2 為替取引によるプレミアム/コストはNDFインプライド金利等を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※3 為替は直物為替レートの1ヵ月間の騰落率を基に簡便的に算出しているため、実績値とは差異があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne



# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

## ケイマン エマージング ソブリン ファンド の状況

※ベンチマークはJPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(米ドルベース・為替ヘッジなし)です。

※格付については、格付機関(S&PおよびMoody's)による下位のものを採用しています。また、+・-等の符号は省略し、S&Pの表記方法にあわせて表示しています。

※ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーの月末データを基に作成しています。

### ポートフォリオの状況

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	5.6%	-
最終利回り	7.7%	7.7%
修正デュレーション(年)	8.0	7.5
残存年数(年)	13.2	13.1
銘柄数	106	175
組入国数	29	25

※ファンドの各データは組入債券評価額を基に計算しています。

### 格付別構成比

	ファンド	ベンチマーク
A以上	16.7%	32.5%
BBB	29.3%	27.1%
BB	30.0%	19.4%
B	12.6%	9.5%
CCC以下	11.4%	11.5%
平均格付	BB	BB

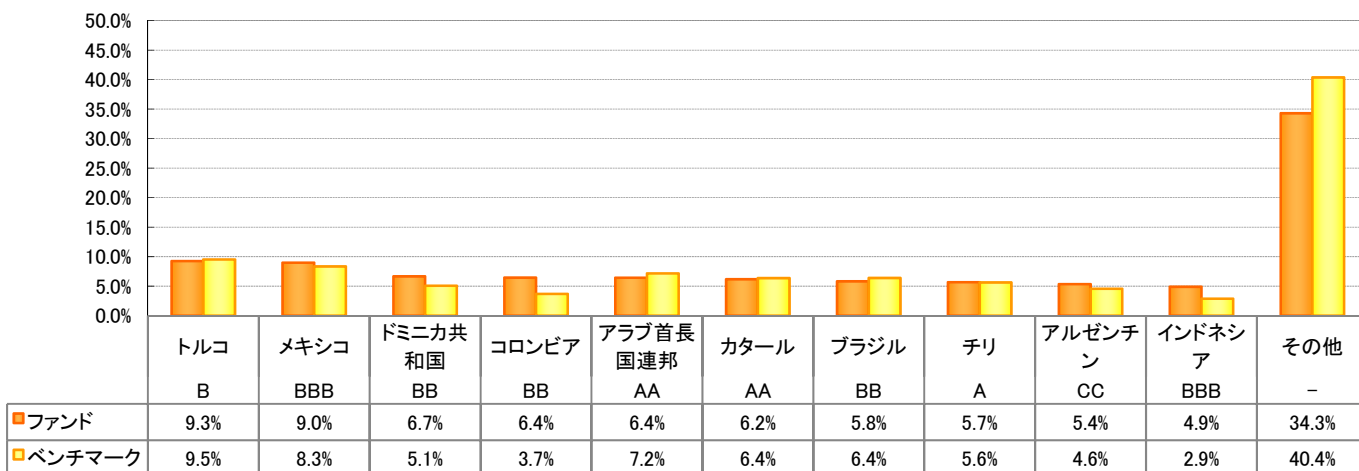
※ファンドの比率は組入債券評価額に対する割合です。

※ファンドの平均格付については、組入れた債券の格付を組入比率で加重平均したものであり、当ファンドの信用格付ではありません。

※格付は個別銘柄格付を採用しています。個別銘柄格付が付与されていない場合は、発行体格付を採用しています。

※CCC以下には格付を取得していないものを含まれます。

### 国別組入比率および格付



※ファンドの比率は組入債券評価額に対する割合です。

※組入上位10か国以外の国については、その他として集計しています。

※格付は国の発行体格付(外貨建て長期債務格付)を採用しています。

### 組入上位10銘柄

	銘柄	クーポン	償還日	格付	組入比率
1	アルゼンチン国債	0.750%	2030/7/9	CC	3.6%
2	カタール国債	4.400%	2050/4/16	AA	3.0%
3	メキシコ国債	4.600%	2046/1/23	BBB	2.7%
4	トルコ国債	6.125%	2028/10/24	B	2.6%
5	ブラジル国債	3.875%	2030/6/12	BB	2.5%
6	アブダビ国債(国際)	1.700%	2031/3/2	AA	2.3%
7	ドミニカ国債	5.300%	2041/1/21	BB	2.1%
8	オマーン国債(国際)	6.250%	2031/1/25	BB	2.1%
9	チリ国債	3.100%	2041/5/7	A	2.0%
10	カタール政府機関債(カタールエナジー)	3.125%	2041/7/12	AA	2.0%

※組入比率は組入債券評価額に対する割合です。  
※格付は個別銘柄格付を採用しています。個別銘柄格付が付与されていない場合は、発行体格付を採用しています。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

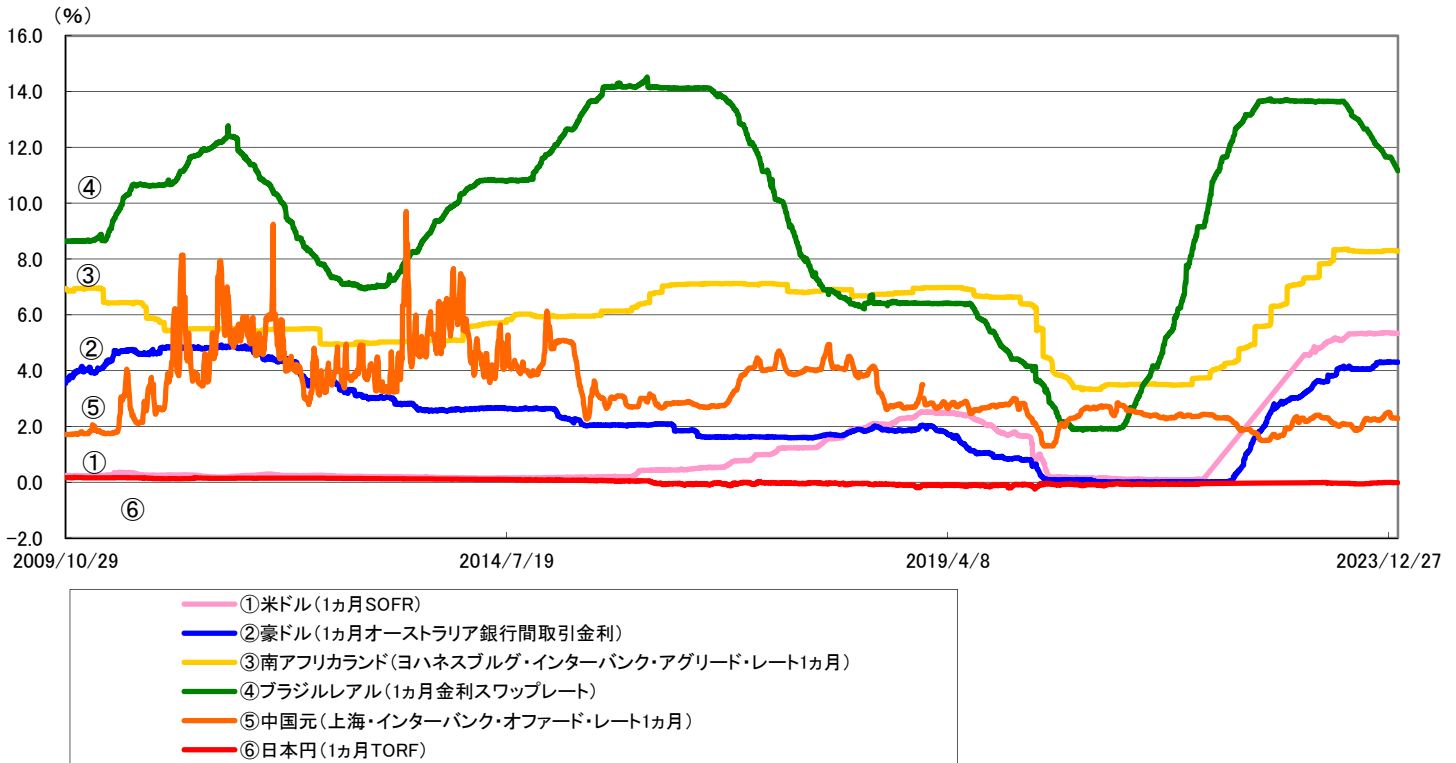


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

## 短期金利の推移 (2009/10/29～)

※ Bloomberg、Datastream、QUICKのデータを基に委託会社が作成しています。



※ 米ドル、日本円は2021年12月末まではLIBORを、2022年1月以降は米ドルはSOFR、日本円はTORFを使用しています。

## <参考> 為替取引によるプレミアム/コスト(年率)

(単位: %)

	円	豪ドル	南アフリカランド	ブラジルレアル	中国元
為替取引によるプレミアム/コスト	-5.73	-1.20	3.21	4.73	-1.74
短期金利差	-5.35	-1.03	2.95	5.83	-3.05

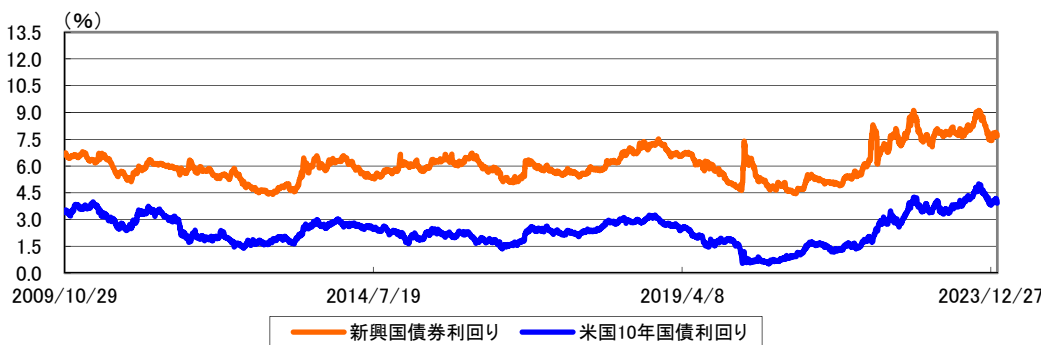
※1 為替取引によるプレミアム/コストは、ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーのデータを基に作成しています。円、豪ドル、南アフリカランドについては、対米ドルの直物為替レートおよび先渡為替レートの月間平均値を基に算出、ブラジルレアル、中国元についてはNDFインプライド金利等の月間平均値を基に算出した数値であり、ファンドの実際の為替取引によるプレミアム/コストではありません。なお、中国元については2013年8月末基準よりNDFインプライド金利の参照データが変更されています。

※2 短期金利差は、基準日の米ドルの短期金利と各コース通貨の短期金利との金利差を表示したものです。

※3 米ドルコースが主要投資対象とする外国投資信託では、原則として為替取引を行わないため、為替取引によるプレミアム/コストは発生しません。

※4 短期金利差の短期金利は、短期金利の推移のグラフの①～⑥を使用しています。

## 新興国債券利回り・米国10年国債利回りの推移 (2009/10/29～)



※1 新興国債券利回りはJPモルガン・エマーシング・マーケット・ボンド・インデックス・プラスの最終利回りです。  
 ※2 Bloombergのデータを基に委託会社が作成しています。

※JPモルガン・エマーシング・マーケット・ボンド・インデックス・プラスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1～3も併せてご確認ください。  
 ※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne



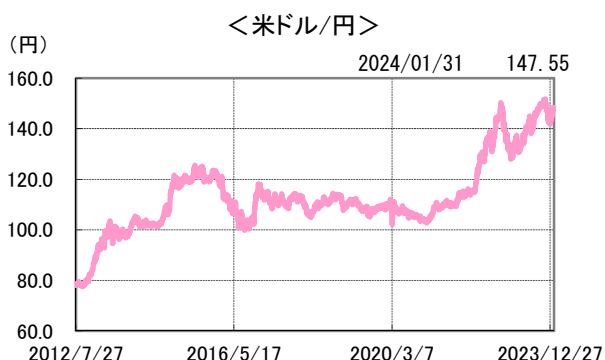


# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

## 各国の為替の推移

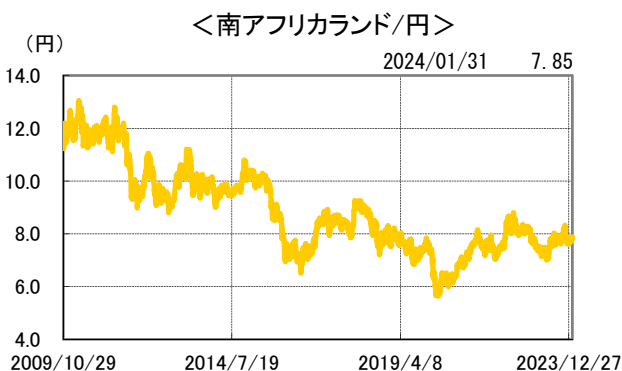
アメリカ



オーストラリア



南アフリカ



ブラジル



中国



※1 各ファンドの設定日からの推移を掲載しています。(中国元：2011年1月25日、米ドル：2012年7月27日、その他の通貨：2009年10月29日)  
 ※2 為替レートは、一般社団法人 投資信託協会が公表する対顧客電信売買相場の仲値(TTM)です。

※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、四捨五入して表示しています。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1～3も併せてご確認ください。  
 ※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne



マーケットの動向とファンドの運用状況

【1月の市場動向】

1月の新興国債券市場は下落しました。

金融市場が、2023年末にFRB(米連邦準備理事会)が2024年の早い時期に利下げを実施するとの期待感を織り込んでいたものの、2024年1月初の米雇用統計が事前予想を上回ったことやFRB高官から早期の利下げ期待を牽制する発言が相次いだことから、早期の利下げ観測が弱まり、米長期金利が上昇、市場のリスク回避姿勢が強まりました。その後も、世界経済の減速により、原油需給の悪化が懸念されたことや1月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)を控えて様子見姿勢が強まったことなどから、軟調に推移しました。

上記の市場環境下、サウジアラビア、カタールを中心に下落しました。為替市場では、米ドル/円相場は、米ドル高・円安となりました。FRBの早期利下げ観測が弱まったことや日銀が早期に政策修正に踏み切るとの警戒感が後退したことから、日米金利差が拡大したことなどが、上昇要因となりました。

豪ドル/円相場は、豪ドル高・円安となりました。日銀が早期に政策修正に踏み切るとの警戒感が後退したことなどが、上昇要因となりました。

ブラジルレアル/円相場は、ブラジルレアル高・円安となりました。ブラジル国内のインフレ指標が市場予想を上回り、ブラジル中央銀行の利下げペースが減速するとの見通しが強まったことや日銀が早期に政策修正に踏み切るとの警戒感が後退したことなどが、上昇要因となりました。

南アフリカランド/円相場は、南アフリカランド高・円安となりました。南アフリカ経済に回復傾向が見られたことや日銀が早期に政策修正に踏み切るとの警戒感が後退したことなどが、上昇要因となりました。

中国元/円相場は、中国元高・円安となりました。連動性の高い米ドルが対円で上昇したことなどが、上昇要因となりました。

(なお、為替については、一般社団法人投資信託協会が公表する対顧客電信売買相場の仲値(TTM)を基準として記載しております。)

【パフォーマンスとその要因】

円コースの基準価額は、保有債券が下落したことから、下落しました。米ドル、ブラジルレアル、南アフリカランド、中国元の各コースの基準価額は、保有債券が下落したものの、通貨が対円で上昇したことや為替プレミアムプラス寄与が上回ったことから、上昇しました。豪ドルコースの基準価額は、通貨が対円で上昇したものの、保有債券の下落によるマイナス寄与が上回ったことから、下落しました。

投資戦略は、トルコのポジションを拡大し、メキシコのポジションを縮小しました。

(なお、為替については、ロンドンの月末前日を基準として記載しております。)

今後のマーケットの見通しとファンドの運用方針

FRBを始めとした主要国の金融当局が、利上げを打ち止め、利下げへの転換を模索する環境下、金融市場は利下げの時期や利下げ幅などへの思惑により、ボラティリティが高まる傾向にあります。

また、主要国の景気は、減速しつつも底堅さを示してきたことから、金融市場は、当局がソフトランディングを実現すると信頼度を高めており、景気の先行きや金融政策への期待感が市場の下支えとなっています。

しかし、2024年に入り、FRBからは早期の利下げ期待を牽制する発言が相次いでおり、市場の期待どおりのシナリオが実現することとなるのか否かを注視しています。

短期的には、主要国の金融政策の先行き、地政学リスクなど、不透明要因は残存していますが、バリュエーション面から、新興国への投資魅力度は依然として高いと見ています。

国別では、ペルーは、国営石油会社の債券に投資妙味があると評価し、オーバーウェイトとしています。

一方、中国は、景気減速、地政学リスクなどを勘案し、アンダーウェイトとしています。

新興国債券市場は、概ね安定した成長軌道を維持し、信用リスクが改善方向にあることから、先進国の金融当局が政策転換を模索する環境下、先進国の資産クラスと比較しても魅力的な投資機会になると見ています。

主要国の金融政策や地政学リスクの上昇など、不透明要因は残存しているものの、分散投資を意識しながら、外貨準備が潤沢で国外に対する経済的な依存度が低く、安定的・効率的に政策を遂行している国を引き続き選好します。

※上記のマーケット動向とファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



## ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

- 『DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ』は、以下6本のコースで構成される投資信託です。  
 <円コース>、<米ドルコース>、<豪ドルコース>、<南アフリカランドコース>、<ブラジルリアルコース>、<中国元コース>
- 主として米ドル建ての新興国のソブリン債(国債および政府機関債等<sup>(※)</sup>)に投資し、高水準の利子収入の獲得と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的とします。
  - ・各コースは外国投資信託(ケイマン エマージング ソブリン ファンド)への投資を通じて、米ドル建ての新興国のソブリン債(国債および政府機関債等)に実質的な投資を行います。
  - ・外国投資信託の運用はウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーが行います。

(※)各国政府および政府関係機関が発行するソブリン債、または政府が出資している企業や政府保証が付いた債券である準ソブリン債を含みます。

- 為替変動リスクの異なる6コースの中から選択でき、その後のスイッチングも可能です。
  - ・各コース(<米ドルコース>を除く)が投資を行う外国投資信託においては、米ドルに対し各コースの取引対象通貨で為替取引<sup>(※)</sup>を行います。
  - ・各コース(<円コース>を除く)の基準価額は、各コースの取引対象通貨の対円為替変動の影響を受けます。

(※)為替取引とは、保有資産通貨を売り予約し、取引対象通貨を買い予約する契約を結ぶことです。為替取引を行うと実質的に取引対象通貨を保有することと同様の効果があります。

※販売会社によっては、一部のコースのみの取扱いとなる場合があります。また、各コース間でのスイッチングの取扱いは販売会社により異なります。なお、スイッチング時には、信託財産留保額がかかるほか、税金、購入時手数料がかかる場合があります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

- 毎月決算を行い、原則として収益分配を行うことを基本とします。

各コース(<米ドルコース>を除く)

- 毎月5日(休業日の場合は翌営業日。)の決算時には、原則として利子配当等収益等を中心に安定分配をめざします。
- 毎年1月および7月の決算時には、安定分配に加えて委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配をめざす」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

上記注記の記載は2012年6月1日より実施された一般社団法人投資信託協会のルールに則ったものです。

<米ドルコース><sup>(※)</sup>

- 毎月5日(休業日の場合は翌営業日。)の決算時には、原則として利子配当等収益等を中心に分配を行います。
- 毎年1月および7月の決算時には、上記分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

(※)<米ドルコース>(2012年7月27日設定)の分配方針の記載は、2012年6月1日より実施された一般社団法人投資信託協会のルールに則ったものであり、実質的に他のコースの分配方針と異なるものではありません。

- ・将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ・分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

- ファンドは「DIAMマネーマザーファンド」への投資も行います。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

・各ファンドは、特化型運用ファンドです。特化型運用ファンドとは、投資対象に一般社団法人投資信託協会規則に定める寄与度<sup>(※)</sup>が10%を超える支配的な銘柄が存在し、または存在することとなる可能性が高いファンドをいいます。

・各ファンドが実質的な主要投資対象とする米ドル建て新興国ソブリン債には、寄与度が10%を超えるまたは超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、投資先について特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

※ 寄与度とは、投資対象候補銘柄の時価総額に占める一発行体当たりの時価総額の割合、または運用管理等に用いる指数における一発行体当たりの構成割合をいいます。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1～3も併せてご確認ください。  
 ※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



## DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

### 主な投資リスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券等(実質的に投資する外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。その他の留意点など、くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

○ 為替リスク…… ●各コース(＜円コース＞および＜米ドルコース＞を除く)

主要投資対象である外国投資信託では、原則として保有資産通貨(米ドル)を売り予約し、各コースの取引対象通貨を買い予約する為替取引を行います。しかし、米ドルの為替変動の影響を完全に排除できるものではありません。くわえて各コースの取引対象通貨の対円での為替変動の影響を大きく受けます。この場合、各コースの取引対象通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。また、為替取引においては、いずれのコースにおいてもコースの取引対象通貨の金利が米ドルの金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。

●＜円コース＞

主要投資対象である外国投資信託では、原則として対円での為替取引を行い為替リスクの低減を図りますが、為替リスクを完全に排除できるものではなく、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替取引においては、円金利が米ドルの金利よりも低い場合、その金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。

●＜米ドルコース＞

主要投資対象である外国投資信託では、原則として為替取引を行いません。このため米ドルに対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。

※＜ブラジルリアルコース＞、＜中国元コース＞については、為替取引を行うにあたり為替予約取引と類似する直物為替先渡取引(NDF)を利用します(2023年10月末現在)。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待、当該国の資本規制や税制等により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や金利市場から想定されるものと大きく乖離する場合があります。

※外国為替市場の混乱等により為替予約取引やNDF取引が行えなくなった場合、コースの取引対象通貨の為替への投資ができなくなる等ファンドの投資方針に沿った運用ができなくなる場合があります。特にNDF取引は為替予約取引に比べ当該国の資本規制や税制等の影響により流動性が乏しくなることがあることから、そのリスクが高くなります。

※NDF取引については、別紙3をご参照ください。

○ 金利リスク…… 一般的に金利が上昇すると債券の価格は下落します。各コースは、実質的に債券に投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。新興国債券に投資する場合、先進国債券に比べ金利リスクが大きくなる傾向があります。

○ 信用リスク…… 各コースが実質的に投資する債券の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合には、債券の価格が下落したりその価値がなくなることがあり、基準価額が下がる要因となります。新興国債券に投資する場合、先進国債券に比べ信用リスクが大きくなる傾向があります。

○ カントリー…… 各コースが実質的に投資を行う通貨や債券の発行者が属する国の経済状況は、先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化などが為替市場や債券市場におよぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制や課徴的な税制、海外への送金規制などの種々な規制の導入や政策の変更等の要因も為替市場や債券市場に著しい影響をおよぼす可能性があります。

○ 流動性…… 各コースにおいて有価証券等を実質的に売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることがあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。

各ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。





# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

## お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。
購入・換金 申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を行いません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	2024年10月29日まで(2009年10月29日設定。ただし、<中国元コース>は2011年1月25日設定、<米ドルコース>は2012年7月27日設定。)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなった場合。 ・各ファンドにおいて受益権の口数が10億口を下回るることとなった場合。 ・受益者のために有利であると認めるとき。 ・やむを得ない事情が発生したとき。
決算日	毎月5日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年12回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
スイッチング	「DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。 スイッチングとは、すでに保有しているファンドを換金すると同時に他のファンドの購入の申込みを行うことをいい、ファンドの換金代金が購入代金に充当されます。スイッチングの際には、ご換金時の費用(信託財産留保額)がかかるほか、税金および各販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。 ※販売会社によってはスイッチングのお取扱いをしない場合がありますのでご注意ください。スイッチングのお取扱い等、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 各ファンドは、NISAの対象ではありません。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となる場合があります。
その他	販売会社によっては一部のファンドのみのお取扱いとなる場合があります。

## ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

### ●投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.1%</b> の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

### ●投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	実質的な負担:各ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率1.67%(税抜1.565%)(概算)</b> ・各ファンド:ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.155%(税抜1.05%) ・投資対象とする外国投資信託:外国投資信託の純資産総額に対して年率0.515%程度
その他の費用・ 手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用等 ※投資対象とする外国投資信託においては、上記以外にもその他の費用・手数料等が別途かかる場合があります。 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に利率・上限額等を示すことができません。

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne



投資信託ご購入の注意

投資信託は

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 各ファンドは、実質的に債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点(2024年2月15日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆委託会社およびファンドの関係法人◆

<委託会社>アセットマネジメントOne株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会:一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 <受託会社>みずほ信託銀行株式会社  
 <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

◆委託会社の照会先◆

アセットマネジメントOne株式会社  
 コールセンター 0120-104-694  
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)  
 ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。

2024年2月15日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第624号	○		○		
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	○			○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第8号	○				
立花証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第110号	○		○		
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第114号	○				
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○	
東武証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第120号	○				
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号	○			○	
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号	○				
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
日産証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第131号	○		○	○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○	○			
三木証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第172号	○				
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第199号	○				
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号	○	○			
株式会社北海道銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第1号	○		○		※1
株式会社群馬銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第46号	○		○		※1
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号	○			○	※1
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第170号	○	○			※1

- その他にもお取扱いを行っている販売会社があります。また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
- 販売会社によっては、一部コースのみのお取扱いとなります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

<備考欄について>

- ※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。
- ※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
- ※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。



アセットマネジメントOne



# DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ

2024年1月31日基準

**販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)**

以下は取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。  
○印は協会への加入を意味します。

2024年2月15日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○		
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○				
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○		

- その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。
- また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
- 販売会社によっては、一部コースのみのお取扱いとなります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。
- <備考欄について>
- ※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。
- ※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
- ※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)

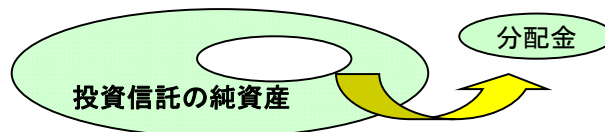
※当資料は15枚ものです。なお、別紙1~3も併せてご確認ください。  
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

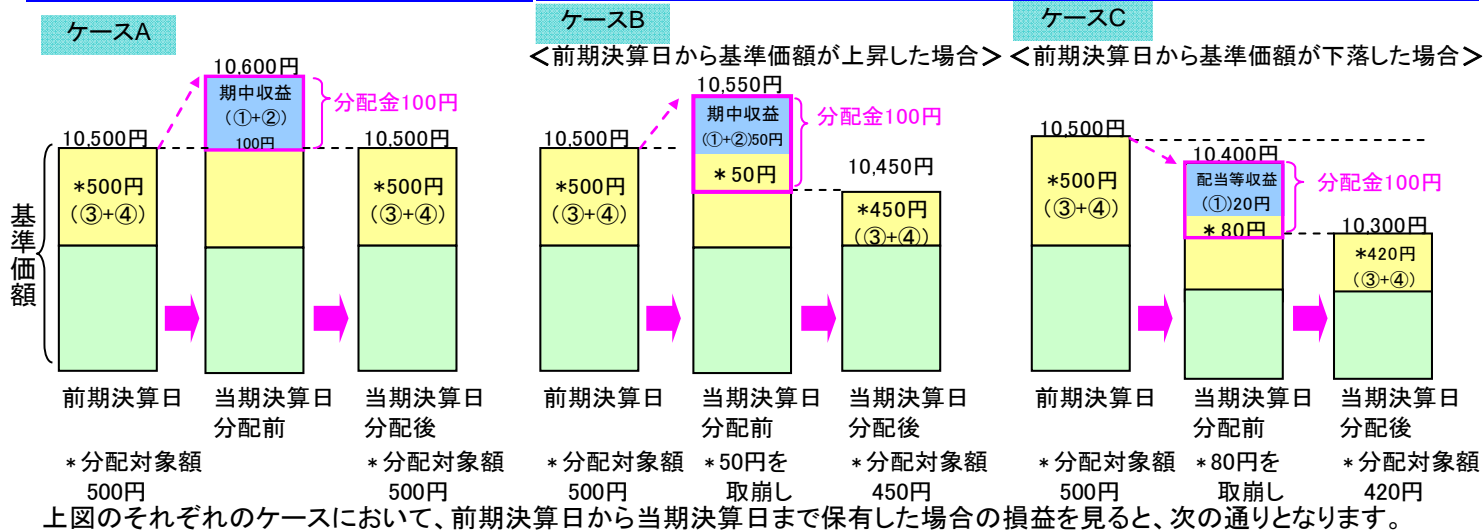
### 分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

①配当等収益(経費控除後)、②有価証券売買益・評価益(経費控除後)、③分配準備積立金、④収益調整金

計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



ケースA: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円 = 100円  
 ケースB: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円 = 50円  
 ケースC: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円 = ▲100円

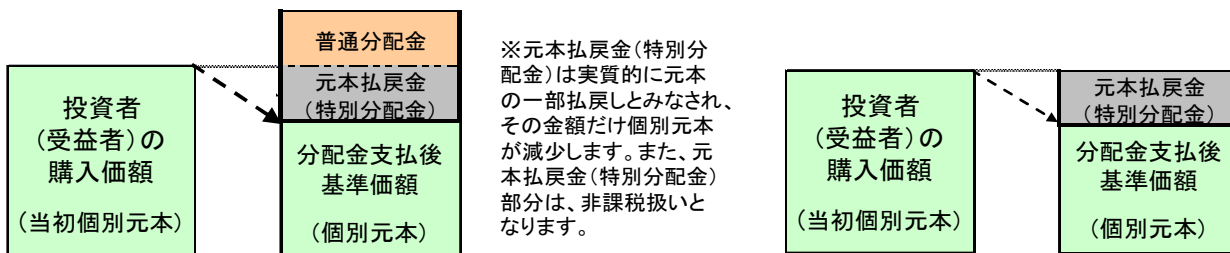
★A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



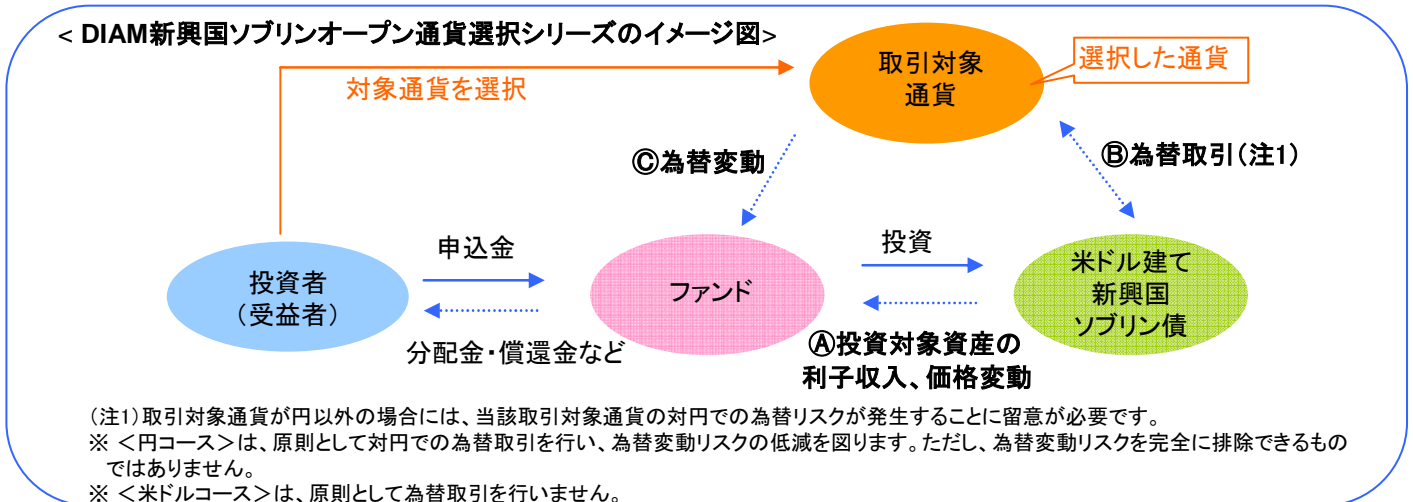
**普通分配金** : 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

**元本払戻金(特別分配金)** : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。



●通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる通貨も選択することができるように設計された投資信託です。



●DIAM新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズの収益源としては、以下の3つの要素があげられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

①投資対象資産による収益(上図①部分)

- ・米ドル建て新興国ソブリン債が値上がりした場合や利子が支払われた場合は、基準価額の上昇要因となります。
- ・逆に、米ドル建て新興国ソブリン債が値下がりした場合には、基準価額の下落要因となります。

②為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)(上図②部分、<米ドルコース>除く)

- ・「選択した通貨」の短期金利が、「米ドル建て新興国ソブリン債の通貨」(米ドル)の短期金利よりも高い場合は、その金利差による「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」が期待できます。
- ・逆に、「選択した通貨」の短期金利のほうが低い場合には、「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- ※「選択した通貨」が新興国通貨の場合などは、金利差がそのまま反映されない場合があります。

③ 為替変動による収益(上図③部分、<円コース>除く)

- ・上図②部分とは異なり、上図③部分については対円での為替取引を行っていないため、「選択した通貨」の円に対する為替変動の影響を受けることとなります。
- ・「選択した通貨」の対円レートが上昇(円安)した場合は、為替差益を得ることができます。
- ・逆に、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生します。

●これまで説明しました内容についてまとめますと、以下のようになります。

収益の源泉	=	米ドル建て新興国ソブリン債の 利子収入、値上がり/値下がり	+	為替取引による プレミアム/コスト	+	為替差益/為替差損
収益を得られる ケース		金利の低下 等 <b>債券価格の上昇</b>		取引対象通貨の短期金利 >米ドルの短期金利 <b>プレミアム(金利差相当分          の収益)の発生</b>		円に対して取引対象通貨高 (円安) <b>為替差益の発生</b>
損失やコストが 発生する ケース		金利の上昇 発行体の信用状況の悪化 等 <b>債券価格の下落</b>		取引対象通貨の短期金利 <米ドルの短期金利 ※<米ドルコース>を除きます。(注2) <b>コスト(金利差相当分          の費用)の発生</b>		円に対して取引対象通貨安 (円高) ※<円コース>を除きます。(注3) <b>為替差損の発生</b>

(注2) <米ドルコース>は、為替取引を行わないため、為替取引によるプレミアム/コストは発生しません。

(注3) <円コース>は、原則として対円での為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

## 為替予約取引とNDF取引

為替取引を行うにあたり、通常は「為替予約取引」を用います。

しかし、一部の新興国通貨では……  
(中国元、ブラジルレアル、インドルピー、  
インドネシアルピアなど)  
**「為替予約取引」ができません。**

そこで

**NDF取引**を活用

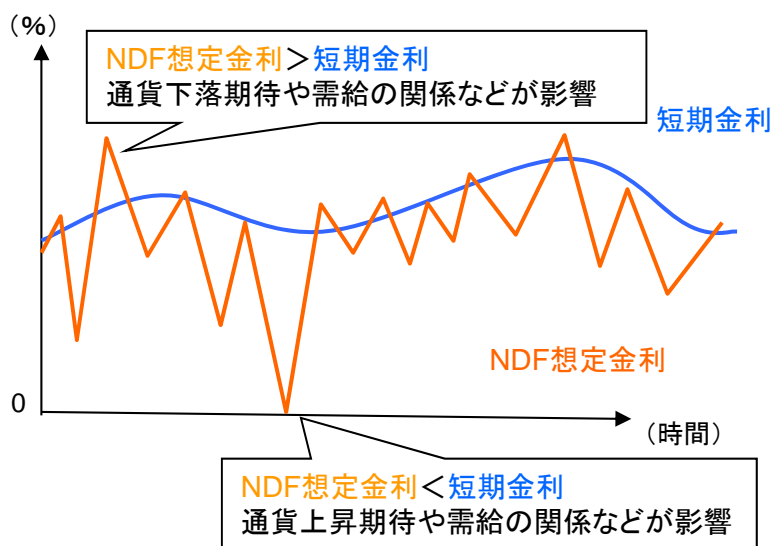
### 【理由】

為替市場が未成熟であったり、当局が国外での自国通貨の流通を制限しているなどの理由で、本国以外で多額の当該通貨の保有、調達、決済などが難しいためです。

## NDF(ノン・デリバブル・フォワード)取引とは

- 直物為替先渡取引の一種です。主に金融機関との相対取引で、当該通貨の受渡しが発生せず、主に米ドルなど主要通貨で差金決済を行います。
- 通常の為替予約取引と比べ、取引参加者が少ないことや、当局による金融・資本市場における制約などから、金利裁定(割高や割安を是正する市場のメカニズム)が働きにくいだけでなく、取引参加者の為替見通しを反映した需給の影響をより強く受けることがあります。そのため、**NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離**する場合があります。

＜NDF想定金利と短期金利が乖離する例(イメージ)＞



NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)は、通貨に対する需給や通貨の上昇期待が反映され、マイナスになる程低くなる場合もあります。その場合、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)の減少やコスト(金利差相当分の費用)の発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与えることがあります。

※左記は、イメージであり、すべての事象があてはまるとは限りません。また、将来の水準を予測、または示唆するものではありません。

- 外国為替市場の混乱等によりNDFが利用できなくなった場合には、選択した通貨への投資ができなくなるなどファンドの運用方針に沿った運用ができなくなるリスクもあります。同様のことが通常の為替予約取引についてもいえますが、特にNDFは為替予約取引に比べて流動性が乏しくなることがあるため、そのリスクが高くなります。

※上記の要因以外でも、投資対象資産の通貨の短期金利が上昇した場合は、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)が減少したり、コスト(金利差相当分の費用)が生じる可能性があります。

※上記は、NDF取引や為替市場に関する説明の一部であり、NDF取引および為替市場についてすべてを網羅したものではありません。

(出所:各種情報に基づき委託会社作成)